

編集後記

-
- 井上郡康 東日本大震災から2年が過ぎ、時間の流れと共に人々の心境や被災地の問題も変化してきていると取材を通して感じています。
- その中で個人的に注目したのは、「地域の伝承」そして「地名」でした。東北地方では長い歴史の中で先人たちが培った、この地で生き抜くための知恵を伝承や地名という形で残してくれています。特に津波被害が多かった三陸地方では、様々な形で残っていました。今回の東日本大震災では、東日本に甚大な被害をもたらしたと共に多くの学びを残していることも事実です。我々は今回の震災で得られた教訓を生かし、現在の科学技術だけに頼るのではなく、先人からのメッセージをしっかりと受け取り持続可能な社会を後世に残していく事が重要だと改めて感じました。
- 2年目に入った「3.11あの時」レポートは、伝承や地名をはじめ山形県や秋田県での壮絶な支援活動など様々なメッセージが記録されております。多くの震災からの学びを受け取って頂ければ幸いです。
-
- 佐々木雅博 東日本大震災の発生から2年が経過しました。その時間の感じ方は人によって様々だと思います。テレビ、ラジオ、新聞などのメディアでは当時の映像や2年を経過して今なお癒えることのない悲しみ、不自由な生活を余儀なくされている方々の様子、なかなか進まない復興の現状などを伝えていました。
- 3.11あの時、巨大な揺れに恐怖を感じ、ライフラインが途絶えた際の現代の生活の脆さを経験しました。しかし時間の経過と共に震災時の様々な記憶も薄れてきてしまっているように感じます。
- 「3.11あの時」も多くの方に協力いただき2巻目となりました。震災の記憶を風化させないことに少しでも役立てばと思います。
-
- 三浦純 私は、あの日以降、子どもたちを見る目線が少し変わったように感じます。目線がやわらかくなったような気がします。大震災が精神に変化をもたらしたのかもしれませんが。この子どもたちが大きくなった時、ほとんど記憶の中にはないはずの大震災をどう私たちは伝えていかなければならないのでしょうか。取材先の風景を見る目線も変化しました。今まで生活の営みがあった場所が閑散とし、訪れたことがなかった場所でも何故か愛しいと感じるようになりました。
- 2年を経過した現在も、依然として多くの課題が山積しています。大震災の記録、記憶を正しく伝承、活用するために、私たちは何をすべきだろう。これは、この大震災に遭遇した全ての人々が、未来のために今、考えなければならないことだと思っています。
- この貴重な多くの証言の数々が、後世に残る大事な財産として、また、あの時を経験していない多くの人々の目に触れる機会があることを切に願っています。
-
- 鈴木美紀子 2011年4月以降、累計74件分の「あの時」と向き合ってきました。大震災から2年、「まだ2年なのか」とまるで10年前の出来事のようにも思え、同時に「もう2年なのか」と相反する思いを抱きます。
- 2冊目の発行となる本冊子では、支援の拠点となった秋田、山形の皆さまにもヒアリングにご協力いただき、隣県の支援者の目線、中間支援組織の目線からのレポートを掲載することができました。1冊目に引き続き、「お互い様」の心を持つことの大切さ、地域の方の目線で活動はもちろん、寄り添うことの大切さ、そして自然に対する畏敬の念と謙虚な心を持つことの大切さが異口同音に語られています。ヒアリングの中で何度も耳にするこれらのキーワードは、現場にいる・現場を知る皆さまが最も伝えたい「教訓」です。EPO東北が「伝える」役割を担うことの大切さを噛みしめながら、多くの方に読んでいただきたい、そして何度でも読み返していただきたいと願いをこめて、本冊子をお届けします。
-
- 小山田陽奈 取材でさまざまな場所を訪れ、多くの方からお話を伺いました。大震災から2年の月日が流れてもなお多く残る課題、また時間が経過したことで出てくる新たな課題…。しかしながら取材を通して、課題と向き合い立ち向かうとする人々のたくましさや強さを知りました。また、報道が伝えきれない事実、ストーリーや感じたことが人の数だけあったのだと改めて気づかされました。震災後「幸せってなに?」「これからどう生きていくの?」と自己に問いかけたことを、私たちは忘れてはならないと思います。レポートを読み返すと「私たちはあの時に得た教訓をもとに今を暮らしていて、これからその営みを次の世代に伝えていかなければ」と強く感じるとともに、この冊子は東北各地の皆さまとともに作り上げたのだと感謝の気持ちでいっぱいになります。ご協力くださいました皆さま、本当にありがとうございました。1人でも多くの方に読んでいただければ幸いです。
-